

## 修士論文要旨

### 心理劇におけるベテラン監督者のわざ ～ベテラン監督者と初心監督者の比較から～

別府大学大学院 文学研究科 臨床心理学専攻

M1514005 野依矢的

心理劇の進行を務める監督は参加者を支える等の大切な役割を担っており、監督の責任や役割についての説明は様々な論文(山田, 2005 ; 松山, 2011 ; 清原ら, 1991)で取り上げられているが、実際に心理劇を進行するための具体的な方法や手順については明示されておらず、心理劇の監督経験の浅い初心監督者が心理劇を進めることは困難である。そのため、本研究は心理劇の各々の場面における監督の進め方や関わり方、意識することを明らかにする事を目的に行った。

研究1ではベテラン監督者7名に「ベテラン監督者が気を付けている事」と「初心監督者へのアドバイス」について半構造化面接のインタビュー調査を行い、KJ法にならって分類した。その結果、「ベテラン監督者が気を付けている事や配慮している事」も「初心監督者へのアドバイス」も同様に<監督の心構え>と<ウォーミングアップ>、<具体的な方策>の主項目が立てられたが、それぞれの副項目は異なっており、ベテラン監督者が参加者一人ひとりを大切に考え、安心してもらえるように場に合わせた進行を行っていること示唆された。初心監督者へのアドバイスは、監督が自分らしく進行し、参加者の協力得ながら、全体の雰囲気をつくり、楽しめる劇から行うことが重要であると示唆された。

研究2では、初心監督者の心理劇を2セッションとベテラン監督者の心理劇を2セッション行い、各心理劇体験後に参加者へ自由記述の感想を求め、KJ法にならって分類した。その結果、初心監督者の心理劇を体験した参加者の感想も、ベテラン監督者の心理劇を体験した参加者の感想も同様に<心理劇での体験に対する感想>と<監督に関する感想>の2つの主項目が立てられたが、それぞれの副項目は異なった。初心監督者の場合は、参加者が監督の緊張感やぎこちなさを感じながらも、監督に協力しようという気持ちになり、まとまろうとしていたと示唆される。また、自分なりに考えながら観たり演じられた参加者や、場面に親近感がありイメージアップできた参加者は、没入や共感を得られたが、一方で場面の展開について行けない参加者は、不安や疑問が解消されないままでいたことが推測された。ベテラン監督者の場合、参加者が一丸となって劇を作っていく、さらに、参加者が監督の配慮に気づき安心して任せられる気持ちになり、それによって、参加者は今

までなかった視点や気づきをより感じていたことが示唆された。

以上のことから、ベテラン監督者のわざは、①参加者一人ひとりの様子に注目し、劇でどのような役になれるか見立てる事、②参加者に安心してもらうために、参加者やその場に合わせて進行する事、③参加者の中から馴染めていない人をいち早く発見し、声をかける事、④ウォーミングアップや劇を段階的に少しずつ展開していき、参加者のイメージアップを行っている事、⑤参加者同士の集団力動を促す事が考えられる。